

国語プリント No. ()

配布日 月 日 曜

年 組 番 名前

山月記 記述の違いと李徴の変化

【課題1】 第1段落の李徴が発狂した時の記述と、第2段落で李徴がその時のことをふりかえった記述で、食い違っている点はどこか？

「一年の後、公用で旅に出、汝水のほとりに宿ったとき、ついに発狂した。」

(一) この表記だと李徴はこの時点でおかしくなっているが、その時にはもう虎になっていた。

(二) 周りの人たちは発狂したと思っていたが、実際李徴は発狂していなかった。

「ある夜半、急に顔色を変えて寝床から起き上がると、」

(三) 急に顔色を変え起き上がったのではなく、ふと目を覚ましている。

「何かわけのわからぬことを叫びつつそのまま下に飛び下りて、闇の中へ駆け出した。」

(四) 自分と呼ぶ声を無我夢中で追ってかけて行ったと書いてある。

(五) 誰かに呼ばれ、招かれて走っていた。

(六) 李徴は突然走ったのではなく、声に名前を呼ばれていた。

※「何かわけのわからぬことを叫びつつ」

「戸外でだれかが我が名を呼んでいる。声に応じて外へ出てみると、声は闇の中かしきりに自分を招く。」

にある「叫び」・「声」とは何だったんだろう？誰の声？何の声？ ()

【課題2】 人間の時と虎になった李徴の性格で、変化しない点、変化した点をそれぞれ述べなさい。

【変化しない点】

(一) 頭がよい。

(二) 一人でいようとする。

【変化した】

(9) 好き嫌いで行動していたのに対して、自分の身に起きたことを受け入れ始めている。

(10) 人間だった頃は自分の境遇にあらがい、思うとおりに生きようとしていた

例…… (

が、虎になってからは「生き物の定め」として「理由もなく受け取って理由もわからず生きていくのだ」として考えが変わった。

(11) 自分に自信があつたのが、自分のことが恐くなった。

|| () ことに**自信が無い**。

(12) 人とすすんで関わろうとしなかったのに、自分から話したいと言っている。

↓ () だったのに、関わろうとしている。

↓ () だったのに、相手に頼んでいる。

「自分が姿を現せば、必ず君に畏怖嫌厭の情を起こさせるに決まっているからだ。」

(13) 他人を気遣えるようになった。

(14) 人間だったときはウサギを見ても何も思わなかったけれど、ウサギを捕まえに走ってしまふところが直感タイプ？ 感覚タイプ？ 本能のまま動く。

※客観的に見ることができるのはどんなとき？ (

客観的にいられなくなるのはどんなとき？ (

★(15) 「おれ」に自称が変化した。

「自分」…… (

) の心の李徴

「おれ」… (

) の心の李徴

どうしてこれらような変化が起こったと考えられるか？ 辻褄を合わせてみよう。

(16) 人間だったときは、「狷介」だったが、虎になったら「人間の心」では記憶の無くなるのが恐ろしく、「虎の心」では**残虐**になった。

「**残虐**」と通じる (似ている) 李徴の人間だった時の性格…… 「

」